

- ◆企画名 ピア・コミュニティ夏合宿
日 程 平成 24 年 9 月 8 日 (土) ～9 月 9 日 (日)
場 所 関西大学セミナーハウス 高岳館
参加者数 42 名 (ピア・サポータ 19 名、研修生 11 名、教職員 7 名、学生支援室 TA 5 名)
目 的

1. 関西大学ピア・コミュニティの理念や各コミュニティの活動を理解し、コミュニティやサポータとしての在り方を振り返る。
2. コミュニティの垣根を越えてサポータ同士が交流する時間を設け、各コミュニティやサポータ間の相互理解を深めることで、今後の円滑なピア・サポート活動に繋げる。
3. ピア・サポート活動に必要なスキルを習得する。

内 容

上記の目的をもとに運営本部は「サポータが合宿に求めるもの」の集約や情報の共有を、代表者会議を活用しながら行った。

1. 当日実施した項目

【一日目：9月8日】

- ①アイスブレイク...合宿初参加のサポータが多く、コミュニティの枠を超えた交流が行えた。
- ②関西大学ピア・コミュニティとは...今後の活動に向けて理念を再認識する機会となった。
- ③ピア・コミュニティ紹介...各コミュニティがスライドを使用して活動紹介を行った。
- ④企画振り返り...コミュニティ混成のグループで今後のことを踏まえた意見交換をした。

【二日目：9月9日】

- ⑤アイスブレイク (2)
- ⑥コミュニティ運営について...コミュニティ運営についてのテクニックを学んだ。
- ⑦企画の立て方・進め方...全体で企画立案に必要なこと、ルールをワークで学んでもらった。
- ⑧合宿を振り返って...サポータの考えや思いを共有した。

2. 反響

アンケート回答者のうち 33 名は、合宿に参加して「有意義だった」「やや有意義だった」と回答をした。また、「スキルを学ぶことができてよかった」など好意的な声が非常に多かった。

感 想

合宿企画担当者を各コミュニティからの輩出制による従来の合宿班体制ではなく、運営本部が単独で運営・実施する初めての試みであった。だからこそ「どのようにすればより良い合宿になるだろう？」という問いに各自が向きあうことができ、参加したサポータからも高評価を頂けるような、例年以上に〈濃さ〉を意識した合宿を作り上げることができたと感じている。

合宿を境にピア・コミュニティルームでコミュニティや学年の関係なく交流するサポータの姿が合宿開催以前より増えたように見受けられ、今回の合宿は当初の目的に対して一定の成果を挙げているように思う。

改善点

①スケジュールリングの甘さ

合宿開催決定から実施までの期間の企画スケジュールの管理、当日プログラムのシミュレーションを欠かさず行うこと。

②サポータの持っている情報や認識に差が生じたこと

運営本部のサポータ同士で集まることのできる時間が限られている中で、どのように各自が考える方向性や企画の内容を正確に共有するかについて検討し、普段の活動から改善したい。